

かいけ心正こども園では、今年度の園運営（令和4年度教育推進の重点と実践）について職員が自己評価を行いました。その結果と取り組み状況についてお知らせします。

1. 令和4年度に定めた重点項目に取り組むにあたり設定した学校評価の具体的目標

学校評価の趣旨を理解し自己評価を行うことにより、職員自らが客観的に自園の教育・保育を振り返り、施設等の改善、教育保育内容の改善に取り組んでいくための姿勢を身につける。

2. 評価項目の達成及び取り組み内容

職員にアンケートを実施し、各自が各項目について評価したものを総合的に判定しました。

【評価の基準】

A) 十分達成されている B) 達成されている C) 取り組まれているが、成果が十分でない D) 取り組みが不十分である

【結果の基準】 肯定的評価 (A+B) A: 85%以上 B: 75%以上 C: 65%以上

評価項目	取組内容	結果	理由
1 園の教育方針・内容	1 園訓・教育理念・教育方針のもと、0歳児から就学前までの「目指す子どもの姿」を具体的にイメージすることができる。	B	・園訓・教育理念・教育方針は、園の全体計画に提示し、職員全員が共通して理解するようにした。そのため、概ね基本理念を具体的にイメージすることができている。
	2 園の全体計画及び教育課程は、認定こども園教育・保育要領を踏まえ園の理念に則したものになっているか、教職員間の共通理解のもと、定期的に見直しを行うようにしている。	A	・毎月行っている月案会では、子どもの実態や姿に基づき、活動内容を変更し指導（保育）計画を作成するよう努めている。また、会議の中で、同学年と異学年の保育活動を確認しながら、つながりある保育内容になるよう心がけている。
	3 園の方針（良い生活習慣の実践とSDGs活動等）や特色教育を指導計画や保育に生かそうとしている。	A	・今年度も、園全体でSDGs推進のための取り組みを行ってきた。毎月の指導計画の中にも、SDGsを意識しながら、各年齢の保育実践を振り返り、保育内容を見直す機会を作り、計画的に取り組んでいる。
2 職員の職務	4 全職員がコンプライアンスに関心を持ち、理解に努めている。	B	・職員採用時を含め、今年度は外部講師を招き、コンプライアンス研修を行った。また、必要に応じて、朝礼終礼等で職員への情報共有や注意喚起を行ったりしている。今後も定期的にコンプライアンスの知識や意識を持つよう徹底していきたい。
	5 全職員が「かいけ心正こども園」の一員としての自覚を持ち、共通理解を心がけている。	B	・朝礼や終礼、職員への全体報告日などで情報共有や共通理解などを行っている。また、時差出勤等による働き方により情報が漏れないよう、職員メールやタブレットも活用している。
	6 全職員が様々な研修会（オンライン研修や園内研修等）に、積極的に参加している。	A	・新型コロナウイルス感染状況によって、ハイブリット型研修等をできるだけ利用し、積極的に参加している。また、特色教育の外部講師を含め、県の指導主事による人権研修も実施し、園全体での資質向上に努めている。
	7 全職員が、言葉遣いや立ち居振舞いなどに気を配り、子ども達の人権を尊重し、お手本としての姿を心掛けている。	B	・「子どものお手本」であるという意識が、職員によってばらつきがあり、十分でない部分が見られる。また、「人権擁護のためのチェックシート」を活用し、子どもの気持ちを尊重する言葉かけや援助の仕方を改めて確認したことにより、自分の行動を見直す機会になった。今後も、職員間で意識統一を図りながら、職員一人ひとりがさらに努力するようにしていきたい。

3 地域交流・施設管理	8	園の教育方針や考え方について、保護者に分かりやすく伝えている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 園からの定期的な便り等で、園の方針や取り組み、思いを保護者の方にわかりやすく伝えるよう努めている。また、実際に園での子どもたちの様子をメールやインスタ等を活用しながら、さらに幅広く伝えられるよう努めている。
	9	保護者のニーズの把握につとめ、職員間で共通理解をし、要望や苦情に適切な対応をしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 管理職を含めた情報共有を行い、保護者の方の要望等にも素早い対応が出来るよう努めている。 職員間でしっかりと共通理解を持ち、園の方針等を十分に伝えていけるよう、今後も努めていきたい。
	10	小学校や公民館など地域との連携につとめている。(保幼小連携・学校訪問・二次避難場所等)	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も、コロナ禍により小学校や地域交流はできなかった。二次避難場所(福米西小学校・公民館)を実際に歩いて確認したり、就学前の年長児の様子を小学校の先生に見に来て頂いたりすることはできたので、今後は園児が近隣の小中学校や保育園の交流や連携ができるよう検討していきたい。
	11	園が行っている子育て支援(ホームクラス・学童保育・園開放・親子イベント等)について具体的な形や内容を理解し、職員全体で協力して行っている。	C	<ul style="list-style-type: none"> 在園児の親子イベント(6月・7月)や未就園の園開放(8月)は、計画通り行うことができた。後半は新型コロナウイルス感染予防のため、個別対応での開催となったが、急な日程変更等により担当職員のみでの対応だったため、職員全体では取り組みできなかった。
	12	広く地域の方々に園の教育理念や教育方針を理解してもらえるように、園の情報をHP・インスタ等で常にわかりやすく発信している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、感染対策として、分散型の参観日は行うことができた。できる限り子どもたちの様子をメールやインスタ等を活用し動画配信した。また、地元テレビや新聞等にも取り上げてもらい、園の様子を地域にも多く発信するよう心がけている。
	13	様々な防災対策を進め、防災についての知識や訓練をおこなっている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練年間計画に沿って取り組み、職員および園児の安全教育や防災意識を高めるよう努めている。 引き渡し訓練や職員の防火訓練も定期的実施している。

3. 学校評価の具体的目標や取組み内容の総合的評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も、コロナ禍において、「子どもの最善の利益とは何か」、「子どもの人的環境である職員が、楽しみながら仕事に取り組めるか」など考え、様々な活動や行事を見直し進めてきた。また、今年度は、送迎バスの「置き去り」や保育士による「不適切保育」などの事件が保育現場で起こり、本園でも、改めて「子どもの命」を預かっているという自覚を再認識し、アプリやICTの活用に加えて、安全教育や人権教育の研修を積極的に行った。 毎年12月に、保護者の方に「学校評価アンケート」にご協力頂いている。その結果、園に対しておおむね理解を得られているように感じられる。保護者とのコミュニケーションについては、職員のばらつきを指摘されることもあり、園全体の発信に加えて、個別の対応もしっかり行っていきたい。 子育て支援については、コロナ禍ではあったが、未就園児や在園児向けに園開放等を開催することができた。その際、子育て相談や親子での触れ合いの場の提供と同時に、園の雰囲気を感じてもらえる機会となった。今後も、多くの方に園の様子を知ってもらうために、HPやSNS等の広報媒体を活用していきながら、子育て支援活動の内容を充実していきたい。

4. 令和5年度の重点項目

- ① 地域に必要とされる認定こども園として、子どもの最善の利益のために、幼児教育・保育の充実を目指し、教育的特色の強化を図る。
- ② 「かいけ心正こども園」の一員として、質の高い幼児教育の提供のための環境整備に努める。
- ③ 「地域の総合子育て支援センター」として保護者や地域から理解され、安心安全な施設となるよう努める。